



## 國上 耕太

2000年／電子機械工学科卒業

システムコンサルタンツ株式会社  
札幌支社

私は2000年3月電子機械工学科を卒業したOBです。卒業後はシステムコンサルタンツ株式会社に入社し、請負業務という形で放送機器メーカー様の制御プログラム開発に携わらせて頂いております。私は鹿児島県出身ですが札幌支社に所属し、時折関東地方に出張と公私で日本縦断という日々を送っております。

在学中は「ものづくりセンター」のロボコンプロジェクトを創設し、活動しておりました。この活動は、同センターが開設される1、2年ほど前の私が一回生の時、秀崎良彦先生により「ロボット製作など興味のある人は活動してみないか？」というお話があったのがきっかけでした。当時、チャンスが来た！と思った私は親しい友人を初めとする数人のメンバーで活動を開始しました。しかし、メンバー全員ロボット製作はおろか電子工作などの経験が全く無く、まともなロボットを製作できずに各種大会で予選落ちの繰り返しでした。四回生のときはプロジェクトの顧問をして下さっていた谷口泰敏先生の研究室に創設メンバーがそのまま研究室入りし、かの有名なNHK

ロボコンコンテストにチャレンジすることになりました。活動開始から2、3年。時にはメンバー同士、時には先生と喧嘩のような意見のぶつかり合いがありました。このぶつかり合いが新しいアイデアを生み出し、NHKロボコンでは本校初出場かつ、6位という成績を収めることができました。

私たちの卒業後、NHKロボコンへのチャレンジは「ものづくりセンター」のテーマのひとつとして継続されており、その後も何度かの出場権を得ているというお話を伺っております。

自分の立てた目標をどうクリアしていくか？また、それを1人ではなくチームでクリアするためにはお互いの意見をどうまとめたいか？など、この経験は現在の社会人生活でも生きていくと思えます。

在学中、日中は授業、夕方は少林拳法部での練習、夜間はロボット製作と目の回るようなスケジュールでしたが、文武ともに充実した大学生活を送ることができました。いろいろと指導頂いた先生方、また良い経験を積ませて頂いた大学の環境に今でも感謝しております。



## 六車 正道

1970年／電子工学科卒業

六車技術士事務所々長

PatentCity

検索

私は昭和45年に電子工学科を卒業しました。卒業論文を進めながらアポロ宇宙船の月面着陸を見ていたのを思い出します。

卒業後、日立製作所に就職し、そこで知的財産に関する仕事を36年間やりました。入社当時、特許部は何をするところか理解できず、男子一生の仕事かと悩みました。職場の先輩から「一所懸命井戸を掘ればいつかきつと水が湧き出る」と諭されたものです。

58歳半の時に定年を待たずに自主退職して技術士事務所として独立し、ほぼ3年たちました。技術士は36歳のときに取ったのですが、あの年は大変でした。パソコンをインターネット通信端末としてデータベース検索に利用するシステムを開発し、初めての社外論文を3つ書き、テレビ出演、展示会への出展が続ぎ、過労で2週間も入院するなど大変な年でした。しかし、がんばれば成果も得られると自信がっていた年でもありました。

会社を辞めるとき「技術士だけでは仕事はないよ」と忠告され、独立直後は仕事がなく大変でした。現役時代には全く経験のない、仕事を取って歩くことから始めました。

技術士の資格だけでは誰も仕事は出してくれませんが、可能であれば、サラリーマン時代に独立後の助走的なことをやっておくのが良いです。また、誰もやっていない先行的な仕事の経験はいずれの道を進むにしろ大変良いことです。雑誌などから寄稿依頼が来たら積極的に書くこと、チャンスがあれば投稿も良いでしょう。書くことで業界に名を売れますが、一方で自分の未熟さも分かります。業界で通用する専門能力を身に付けるまでは安易に退職してはいけません。

現在の仕事は、米国の特許データベース会社を含む多くの企業や官庁への支援、指導、講演、小規模のものですがシステムの開発、販売、また、筑波大学で知的財産に関する講師もやっています。カラダはガタが来ていますが、気持ちを若くして、しばらく頑張ってみます。

### 2007年度 福岡工業大学同窓会育英金をもらって

最初に昨年に続き育英金を頂くことができたことについて、同窓会の役員の方々と沢山の会員の皆様から感謝の意を述べたいと思います。大学最後というとても忙しい年を送るにあたって、この育英金はとても大きな助けとなりました。これがなければ私はアルバイトに追われ、卒業研究や就職活動に満足に集中できなかったことでしょう。

この育英金を頂いたお陰で、私は卒業研究に就職活動、教育実習に意欲的に取り組むことができました。教育実習では人に教えることの楽しさと難しさ、社会人としての上下関係を学ぶことができました。また就職活動では第一志望であったN E Cグループの会社に内定を頂くことができました。大学での勉強の集大成である卒業研究も、日々発見で楽しく進められています。内定を頂いた会社から資格取得のための課題を早速沢山出され、卒業研究と同時に進めなければならず忙しくもありますが、とても充実した学生生活を送ることができていると感じています。また、奨学金を頂いた恩をお返ししようと、今年もF1T隊の一員として大学の夏のオープンキャンパスに案内係で二日参加致しました。この時案内した高校生の中に私の写真が大学のパンフレットに掲載されているのを見ていた子がいました。少々恥ずかしいながらも嬉しかったです。さらに、来年のパンフレット作成のための座談会、およびオープンキャンパスで流す在校生から高校生へのメッセージビデオにも参加させて頂きました。他にも、サークル活動で培った写真の腕を活かして、大学のホームページに学内風景を捉えた写真を何度も掲載させて頂いています。

最後に、この四年間を福工大で過ごすことができたのは本当に幸せだったと思います。そして、これだけ充実した学生生活を送ることができたのは奨学金というお力添えがあったからです。いよいよ社会人になりますが、大学で多くの人に助けられたこの経験を忘れず、私も人を助けることができる人間になりたいと思います。

## 編集後記

バンドの演奏に合気道、いまどきのダンスに野球部と、母校で頑張る後輩たちの姿は如何でしたでしょうか？8/3の総会およびホームカミングデーにご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。(広報部)